

特集
1

P8 まちの一員として参加する
東京建物のまちづくり活動



特集
2

P12 健全なサービスは健康な従業員に宿る
着実に成果を上げる健康経営



特集 1

まちの一員として参加する 東京建物のまちづくり活動

東京・八重洲に本社を構え、この地域で多くのビルを保有・管理する東京建物は、地域伝統の祭りである「山王祭」にまちの一員として参加しています。

“まち”の魅力を知り、“まち”の魅力を高める、そのためにさまざまな取組みを行うことが、東京建物のまちづくり活動です。



都市における文化の継承

日本では、戦後の急速な都市化により、人々の住まいは郊外へと移転し、都心部は仕事や買い物などをする場所へと変わってきました。東京もその例外ではなく、都心である八重洲・日本橋・京橋地域の夜間人口はとてまもなく減りました。しかし、今でもこの地域で生活やお店を営んでいるの方々により、お祭りをはじめとするさまざまな行事などの伝統文化が受け継がれています。この伝統文化は、このまちのアイデンティティであり、特別な魅力でもあります。これを今後も永きにわたって継承していくことも、私たち企業の大切な役割です。

東京建物の取組み

1. 企業も社員も“まち”の一員としてまちづくりに参加する
2. “まち”の歴史的文化を学び継承する
3. 継承した文化を“まち”の発展へとつなげる

まちの歴史を知り参加する

天下祭「山王祭」への参加

東京建物はまちの住人の一人として、江戸時代より続く山王祭に参加しています。

町会が代々守ってきた伝統を未来へ受け継ぐ一人となるため、町会の習わしや神輿の着方、神輿の担ぎ方など、事前に社内レクチャーなどを行い、お祭りに備えています。社員が気軽に参加できる仕組みを導入することで、多くの社員が山王祭に触れ、神輿を担ぎ、歴史あるまちの重みや魅力を感じることができました。文化を引き継ぎ、まちの住人として、東京建物社員一人ひとりがまちの住人の意識を持ち、学び、後世へ伝えていくことが重要だと考えています。

その取組みが町会との信頼関係につながり、東京建物本社の所属する檜物町での神輿巡幸の際には、企業名が入った企業神輿を着ることを許され、本社前で「手締め」をしていただいています。

山王祭、下町連合渡御とは？

500年以上前から日枝神社で行われている例祭と関連する祭典を総称して「山王祭」といい、2年に一度の本祭で、6月中旬、各町会の用意する町神輿が各町会を渡御(とぎよ)し、その中で各町神輿が日枝神社摂社や中央通りに集結し、一斉渡御を行うことを「下町連合渡御」という。下町連合渡御は戦争や関東大震災により途絶えていたが、近年復活、2016年で6回目。山王祭は江戸時代、三代目将軍家光公以来、山車と神輿が江戸城に入ることを許されていた数少ない祭。歴代の将軍が上覧する「天下祭」であり、かつ江戸三大祭りの筆頭、日本三大祭りの一つとして愛されている。



東都日枝大神祭禮練込之図 (写真提供：中央区立京橋図書館)



檜物町の神輿は戦火を潜り抜けた数少ない明治時代からのもので重量は約1トン



町会の名前が入った提灯を捧げ持って神輿を先導する提灯隊は重要な役割

八重洲・日本橋・京橋地域の東京建物のビル



神輿を止めて行われる本社前での「手締め」には役員も多数参加

テナントもまちの住人に

東京建物の社員だけでなく、より多くの人に山王祭に参加していただくために、東京建物が運営するビル「東京スクエアガーデン」では、テナント様からも神輿の担ぎ手を募集しました。

参加者の神輿と帯は京橋三丁目町会様からの借り出しを仲介。当ビルに入居されている企業・店舗から40名が参加し、まちの文化を感じていただきました。

温故知新—歴史を知ってこのまちの住人になる

「江戸まち塾」による文化の継承

「江戸まち塾」は、山王祭をより楽しむために、その歴史から神輿の担ぎ方まで、さまざまなことを学ぶプログラムです。山王祭を支える町会に主催をお願いし、東京建物は事務局を務めています。

参加者は社内外に広く募集し、第一人者を講師にお迎えして、さまざまな視点から山王祭の楽しみ方をお話していただきます。こうした活動を通じて、地域の歴史や文化を深く知り、文化を引き継ぐこのまちの住人が増えることを願っています。



神輿をはじめとした神輿の担ぎ手の装束を解説

「江戸まち塾」の募集チラシ



VOICE

江戸まち塾に参加して

江戸まち塾の全四講座に参加して、二つのことに驚いた。一つはテーマの設定と講師選びの巧みさ豪華さ、そして二つ目が主催者、聴講者の熱心さだ。お祭りはまちづくりの基本。そして見るよりも踊る方が一段と楽しい。祭りの歴史や由来、意義を勉強してから踊るか、踊ってから勉強するかはどちらでもいい。しかし、こうした講座が祭りを一層盛り上げ、楽しくさせ、まちの活性化と誇りにつながる。私自身、参加して山王祭が一段と楽しくなった。

月刊「東京人」編集長 高橋 栄一 氏



地域から外への発信

歴史と現在を発信する「東京街人」

東京建物は、八重洲・日本橋・京橋地域の情報を発信するWebサイト「東京街人」を2016年4月にオープンしました。

イベント・スポットガイドはもちろん、エリアの歴史・文化についても発信することで、インターネットを通じて地域の外へまちの魅力を広げています。

また、このエリアで暮らし、働く人には、まちの魅力をより深く知る機会を提供しています。



地元の歴史をよく知る人へのインタビューや老舗企業・商店の紹介なども

神輿・神輿図鑑など
山王祭の情報も多数掲載

東京街人(トーキョーガイド)
<http://guidetokyo.info/>

目次	社長ごあいさつ	特集	安全・安心の取組み	環境への取組み
社会変化への対応	地域社会への貢献	人材資源の活用	管理体制の整備	

新しい文化の発祥によりそう

スポーツをまちづくりに生かす

公道に敷かれた人工芝の上で3対3で行うスピード感あふれる新しいスポーツ「ストリートラグビー」や、2019年ラグビーワールドカップ日本開催に向けて中央区観光商業まつり日本橋・京橋まつりの中で開催された「ラグビーチャリティーフェスティバル」、当社のビルに入居されているテナント様同士の交流促進施策として実施したフットサル大会の開催など、東京建物はスポーツを通じたコミュニティづくり、まちづくりにも携わっています。



ストリートラグビー
さくら通りに人工芝を敷いてグラウンドに。東京建物社員チームはオリジナル絆縷を着て参加。女性の参加者も多数



ラグビーチャリティーフェスティバル
震災被災地の復興支援ブース出店、オークションなどを開催。東京建物はイベントを後援しつつ、社員が運営に参加

その他のまちづくり活動

その他、地域社会への取組み情報は→ P42

まちの清掃

八重洲・日本橋・京橋地域で業務開始前の時間を活用してボランティアで清掃活動を行っています。また、日本橋「橋洗い」イベントには2013年から継続して参加しています。



その他の取組みは
「地域支援」→ P42

まちの防災

地域の防災会議に参加し、自治体や鉄道会社、周辺企業との連絡・連携体制を構築しています。八重洲地域では防災区民組織の事務局を担当しています。



その他の取組みは
「防災対応」→ P22

未来に向けて魅力と競争力のあるまちづくりとは

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、そしてその後も東京は大きく変わっていきます。東京建物も八重洲一丁目の再開発をはじめ、複数の計画に参加しています。現在、東京はニューヨークやシンガポールなど、世界に名だたる大都市と企業や人を誘致する競争を繰り広げています。近い将来、再開発された大都市では、都市内の区・エリア単位で競争することになるでしょう。

そこでは、経済活動のための機能だけでなく、暮らしやすく、歴史・文化を含めた潤いのあるまちづくりが重要になってきます。行政や企業主導の旧来型のまちづくりではなく、そこに住む住民自身が主体的にまちづくりに関わっていくことが必要です。こうした時代に、私たち東京建物は不動産の専門家としてだけでなく、住民の一人としてまちづくりに関わっていきたくと考えています。

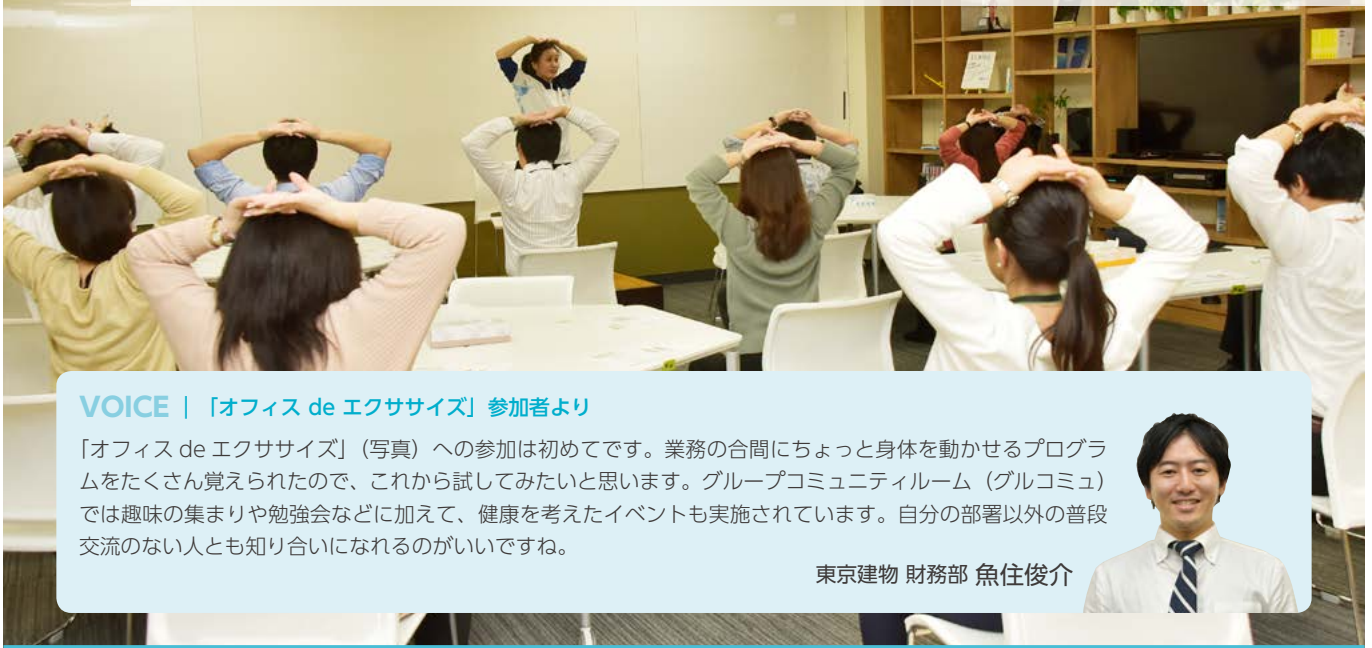
計画中の「東京駅前八重洲一丁目東地区市街地再開発事業」完成イメージ (→P45)



目次	社長ごあいさつ	特集	安全・安心の取組み	環境への取組み
社会変化への対応	地域社会への貢献	人材資源の活用	管理体制の整備	

特集
2

健全なサービスは健康な従業員に宿る 着実に成果を上げる健康経営



VOICE | 「オフィス de エクササイズ」参加者より

「オフィス de エクササイズ」(写真)への参加は初めてです。業務の合間にちょっと身体を動かせるプログラムをたくさん覚えられたので、これから試してみたいと思います。グループコミュニティー room (グルコミュ)では趣味の集まりや勉強会などに加えて、健康を考えたイベントも実施されています。自分の部署以外の普段交流のない人とも知り合いになれるのがいいですね。

東京建物 財務部 魚住俊介



東京建物では、健全なサービスは健康な従業員に宿ると考え、2011年に「100%元気!」というキャッチフレーズを掲げ、会社を挙げて社員の健康への取組みをスタートしました。

大きな事業所では仕事の都合もあって従業員全員が健康診断を受診することは容易ではありません。しかし、受診できなかった一人ひとりに直接連絡をくりかえすことで、東京建物では健康診断受診率100%を6年間継続しています。

その他、長時間労働対策やメンタルヘルス対策を進め、着実に成果が上がってきています。それは「DBJ健康経営格付」の最高ランクの取得や「健康経営優良法人ホワイト500」の認定など、社外からの評価にも表れています。

現在は、この取組みを東京建物グループ全体に広げること、個人が自主的に健康に配慮するように意識を変える手伝いをするのが重要な課題です。まずはグループ各社で健康診断受診率100%を目標としています。

個人に対しては、社内でのインフルエンザ予防接種会や健康管理プログラムを開いたり、リフレッシュルームで軽い運動や血圧チェックができるようにしています。

2017年には健康経営に向けた新たな宣言を発表しました。よりよいサービスを担う役職員の健康維持に向け、これからも取り組んでいきます。

健康診断受診率 6年連続

100%

東京建物単体では2011年から6年連続で100%を達成。再検査の受診率を100%にするのが目下の課題です。

健康経営格付

ホワイト500



日本政策投資銀行が従業員の健康に配慮した取組みを行う企業を評価して融資の条件に反映するもの。2014年3月に不動産業界で初めて最高ランクでこの格付を取得しました。

経済産業省が優良な健康経営を実践している企業を認定するもの。2017年から始まったこの制度で「ホワイト500」の一員に認定されました。

その他、ワークライフバランスへの取組み情報は→ P54

残業時間削減の取組み

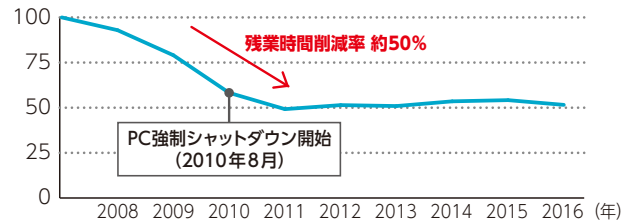
近年、長時間労働による身体やメンタルへの悪影響が社会的な問題となっており、働き方を変えて仕事の効率を上げ、時間外労働時間（いわゆる残業時間）をできるだけ減らそうという流れがあります。

東京建物では、2008年から残業時間削減に会社として取り組んできました。夜間のPC強制シャットダウンシステムを導入したほか、経営層が長時間労働の実態を把握し、上長から改善報告を受ける制度を設け、PDCAサイクルでの残業削減に取り組んでいます。2016年までに約50%（2008年比）の残業時間（時間外労働時間）を削減しました。今後は「働き方改革」を意識した対策にも積極的に取り組んでまいります。



所定外労働時間の推移

（取組み直前の2008年上期の所定外労働時間を100とする。2008年7月から取組みを開始）



VOICE | 労働組合より

当社では、これまでも労使が一丸となって長時間労働対策に取り組んでまいりました。導入済のPC強制シャットダウンシステムに加え、「働き方改革」を念頭においた業務生産性向上に向けた取り組みについても、引き続き労使で考えていきたいと思っております。

東京建物 労働組合委員長
黒川 恭佑



しなやかなメンタルの強さを目指す

健康は身体だけでなく心の健康も重要です。

東京建物では、法定のストレスチェックを行うだけでなく、社員に対して各種メンタルヘルスケアの研修を行っています。なかでも、メンタルヘルスラインケア研修は、新任ライン管理職の受講率100%を維持しており、管理職による職場環境の把握と改善に注力しています。

また、2016年からはスポーツトレーナーを講師に招き、新入社員向けのメンタルヘルス研修を実施したほか（新入社員全員参加）、精神科医師との顧問契約もスタートさせ、職場、働く本人自身、外部の専門家とあらゆる方面からケアができる体制を構築しています。

メンタルトレーニング 受講率

100%※

※ 新任ライン管理職、新入社員

VOICE | 研修参加者より

これまで心の健康に目を向ける機会は、ほとんどありませんでしたが、ストレスに対する考え方など、メンタル管理に関するお話を聞くことができ、大変有意義な研修でした。

東京建物
プロジェクト開発部
村上 宥



東京建物グループ 健康経営宣言



東京建物の企業理念は「信頼を未来へ」であり、「世紀を超えた信頼を誇りとし、企業の発展と豊かな社会づくりに挑戦する」という意味が込められています。

この企業理念を体現するためには、役職員ならびにその家族が健康であることが大切と考えております。私たち東京建物グループは、役職員の心身の健康を「企業の持続的な発展の源泉」と捉え、一人ひとりの健康の維持・増進活動を積極的に推進してまいります。

私は「最高健康経営責任者」として、そのための環境整備を強化し、グループ一丸となって「健康経営」に取り組むことを宣言いたします。

東京建物株式会社 代表取締役 社長執行役員 野村 均